

(2) コラム

停電前線
防害前線

時々又は一時
のち

30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
21(水)	22(木)	23(金)	24(土)	25(日)					

きょう全国

札幌	25	仙台	28	東京	31
旭川	16	山形	23	横浜	26
釧路	30	福島	40	京都	33
青森	33	金沢	29	大阪	25
秋田	28	石川	25	福岡	30
岩手	30	福井	50	名古屋	33
山梨	33	新潟	33	広島	27
長野	33	富山	33	岡山	26
岐阜	33	滋賀	33	徳島	20
愛知	33	三重	33	高松	20
岐阜	33	奈良	33	松山	20
愛媛	33	和歌山	33	高知	20
香川	33	徳島	33	高知	20
高松	33	高松	33	高知	20
高松	33	高松	33	高知	20

しづく雨とはこんな中で加減してくれない。降り方か。夜明けのふと流れる速度と水量が両岸の中を考えていた。寝の堤防に押し寄せる。大ていても外の雨の降り方変な圧力だろ。堤防の見当がついた。そのと上つるの所まで達しき、こんな大水害が起きた水がこぼれだし、ついはは思おもよらない。には堤防を破った▼濁流明けて自宅前の川が増水が福井市の橋南地区の市していた▼悪い予感が街地にとどと流れた。新働いた。被害が出なければ、渦と同じ堤防決壊だが、ばよいが。新潟県の中心部の市街地ということでは福井市の水害の原因をなした梅雨前線が南下していた。テレビをつけ

越山若水

美山町の足羽川の濁流が目飛び込んできた▼ものすごい水害は例をみない▼福がさだ。橋が流された。井市は過去に再三水害に橋を流した水は下流の福見舞われている。震災直井市に一気に向かう。雨後の昭和二十三年七月二が小降りになったから大十五日の大雨による水丈夫かとは早計だった。害。このときは九頭竜川足羽川上流に降った雨の堤防が決壊し、福井市は、あつという間に流れ内が水浸しになった。何下る▼改修が進んだ最近回も水に浸かって蘇っての河川の特質である。途きた経験を生かしたい。

中心部の市街地ということでは福井市の水害の方が住民生活を直撃している。県都の中心部がこれだけ広範囲に水に浸か

平成16年7月20日 朝刊
福井新聞

自然の脅威に万全はない

やはり自然は怖い。新潟、福島、福井を次々と襲った集中豪雨の爪あとを前に、被災地はもとより日本中の人々がそう感じたに違いない。

今回の豪雨の特徴は、何十年あるいは何百年に一度とい

古来、水害に悩まされてきた日本で

はいま、全国の大小の川に堤防が築かれ、少々の雨では大洪水になることはないようになった。

しかしその一方、温暖化により日本の気候は熱帯型に近づいているといわれ、何年かに一度は常識を破るような降雨量の豪雨に見舞われている。また川の上流の開発によって、本来雨水を吸収してくれる森林や水田が失われ、これが下流の被害を大きくしていることも指摘されている。

こうしたいつ起きるかわからない常識外の豪雨のために、全国の堤防をさらに強固にコンクリートで固めたり、高くすることは、環境面や財政面からあまり現実的とはいえないだろう。それよりも被害を最小限に食い止めるため予報、通報、救出などのシステムを整備することが先決と思える。

今回の豪雨では、一部で避難勧告が遅れたり、勧告がうまく伝わらずに危

険地域の住民が逃げ遅れるというケースもあったようだ。気象庁は現代的ともいえる局地的な豪雨の予報の精度を高めるべく努力すべきだ。各自治体もIT（情報技術）を利用した通報・勧告体制も考えてみるべきだろう。

むろん最も大切なことは、いくら防災体制が整っても、それを上回る自然災害が起こりうるということ。すべての国民が心に刻み、注意を怠らないということである。

一方、救出や復旧の面では今度の場合、自衛隊がいち早く出動し、取り残された子供たちを助け出すなどした。多くのボランティアがかけつけ、困難な復旧活動に手を貸している。

小泉首相が自ら新潟の被災地を視察し、激甚災害指定を明言したのは当然だが、阪神淡路大震災以来の助け合いの精神が発揮されたのは文字通り「不幸中の幸い」だった。

<2004.7.21>

朝刊
平成16年7月21日
産経新聞

豪雨が奔流となって町や家々に襲いかかっているところ、筆者は県外にいた。しばらくして異変を知り、断片的な情報を頼りに福井へと急いだ。米原ジャンクションあたりまできて緊張が高まった。▼ボートを満載した自衛隊の車両が数珠つなぎに走るのに出会う。大阪や神戸、姫路などの消防自動車が一緊急援助隊の幕を付け、赤色灯を回転させながら何台も何台も福井へと向かう。「これは大変だ」と腹に力を入れた▼考えてみると、ここ四十年近く本県では水害の「大変」を経験していない。申し訳ないが、週間ほど前の新潟水害でさえ人ごとだった。今度同僚や知人が被災したのを聞かされ、現場を見て

初めて大変を思い知った▼戦後災害史を振り返ると水害は少しも珍しくない。福井地震の翌月には九頭竜川、足羽川さらに荒川までが氾濫して福井市内の60%が水に浸かり六千戸が浸水した。一九五三年には小浜市を中心にした▼このとき福井市では足羽川の逆流で荒川が氾濫した。逆流をくい止めるには足羽川下流に建設中の水越水路築堤を

水害越山

破壊するしかない、というので決死隊がゴムボートで近づいて破壊。大変を救った▼ミツカン水の文化センターの調査では48%の人が、水による何らかの災害の不安を感じている。それにしては備えに甘さはないか。官も民も筆者自身もである。

平成16年7月27日 福井新聞

新潟豪雨の教訓

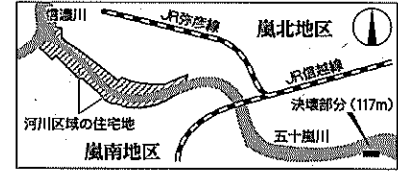
15人が犠牲になり、2万5000棟余りが床上、床下浸水した新潟県の集中豪雨。発生から一週間が過ぎ、復旧作業は急ピッチで進められている。被災住民の困りは一先これで軽減されたのか。という疑問の声が強まっている。短時間に未曽有の雨が降ったことが最大の要因だが、高齢者ら「災害弱者」の救出を中心とした防災マニュアルの運用や情報伝達の手段、河川管理の面など、この自治体でも起り得る問題点が指摘されている。最も多くの犠牲者を出した三条市のケースから教訓を採ろう。

【前念宏、亀井宏昭、柳沢和寿】

クロースアップ 2004

机上の対策決壊

進まぬ河川改修



五十嵐川は、信濃川合流部に近いヘム川幅が狭まると、五十嵐川の一帯広い部分は、河川敷を含めて幅約300m。ところが、合流部近くでは兩岸に住宅地がせり出し、河川敷は狭く、幅は80mに狭まる。増水時には水の逃げ場がない。

国土事務所は、100年に一度の大雨(2日間で流域平均340mm)を想定した場合、合流部に近い付近で毎秒2400立方分の水流が生ずると試算する。しかし、現在の川の形状は、毎秒1200立方分の水量しか流すことができない。

しかし、川幅を広げるには、合流部付近の河川区域の住宅約200世帯を移転させ、周辺部を掘削する大工事が必要になる。移転に反対する住民も多く、改修計画は立ち消えになっていた。

誰も知らぬ救助指針

信濃川の支流・五十嵐川の決壊により、三条市では9人が犠牲になり、うち6人は70歳以上の高齢者だった。市は地域防災計画の中で、こうした「災害弱者」の救出を主眼とする安全対策マニュアルを用いていた。しかし、今回は全く機能しなかった。

マニュアルでは、災害弱者の居住場所を把握し、いざという時、自治会や民生委員が協力して情報伝達や避難誘導を行うようにになっていた。しかし、このマニュアルは、「災害弱者」を念頭に置いていた。避難の場合同様に約300人。自分にも危険が迫る中、自治会長らが高齢者全員に避難を呼び掛けることが不可能だった。

五十嵐川は、戦後少なくとも3回は氾濫し、510人が負傷している。それでも、マニュアルが水害を想定して改訂された形跡はない。マニュアルの周知に

朝刊 平成16年7月22日 毎日新聞

届かぬ避難勧告

三条市は13日午前10時10分から同11時40分にかけて、1万555世帯に順次避難勧告を発令した。しかし、住民に一斉・同時に伝える防災無線はなく、FMや広報車両方は伝達も難しかった。

さらに避難勧告の時間を巡る混乱も起きた。市の災害対策本部の避難担当部署が作成した内部資料では、嵐南地区への勧告時間が、堤防決壊後の「16時30分」に。市は「担当者が勧告の事実を把握した時間を記載した」と説明したが、情報が共有されていなかったことを露呈した。

混乱は続いた。17日午後5時ごろ、五十嵐川の水位が再び上がった。自宅に歸り始めた被災者もいたため、市は避難勧告の徹底を図った。その際、「再度、避難勧告を発令した」との表現で呼び掛けられたため、市民から「避難勧告は出たままではなかったのか」「(より強制力が強い) 避難指示」ということか」といった問い合わせが殺到した。

18日からの福井豪雨で死者1人、行方不明1人、床上、床下浸水389戸の被害が出た福井県美山町。午前6時の災害対策本部設置から5分後に山間地域の一部に避難勧告を発令し、同8時40分、最終的に町内全域へ勧告を出した。いざいざ、町内全域に設置した防災無線を通じて住民に伝えられた。堤防決壊などが起こったのは同10時ごろで、町は「急激な出水が起きた99年の豪雨の経験から早めに判断ができ、防災無線が周知に生かされた」としている。

いても疑問視されている。市は防災無線を運用して、内容を自治会などに伝えていたとする。『災害弱者対策』は、マニュアルは、まさに、絵に描いた餅だった。

3豪雨「激甚」指定へ

小泉純一郎首相は21日午前、首相官邸で左藤剛男副内閣相に「1」を決断した。マニュアルで決められていた『災害弱者対策』は、絵に描いた餅だった。マニュアルは、まさに、絵に描いた餅だった。

小泉純一郎首相は21日午前、首相官邸で左藤剛男副内閣相に「1」を決断した。マニュアルで決められていた『災害弱者対策』は、絵に描いた餅だった。マニュアルは、まさに、絵に描いた餅だった。

また、林副首相は、嵐南地区の被災現場を視察した。福井市内での豪雨の前に、福井市河和町の浸水現場を視察した。副首相は、「避難者の生活早くと戻れるよう支援したい」と述べた。

また、林副首相は、嵐南地区の被災現場を視察した。福井市内での豪雨の前に、福井市河和町の浸水現場を視察した。副首相は、「避難者の生活早くと戻れるよう支援したい」と述べた。

復旧を医療で支援

日赤県支部、センター開設



日本赤十字社県支部は二十一日、福井市みのり三丁目の県災害ボランティアセンター内に、復旧作業に当たる人たちの医療面からサポートする「赤十字救援センター」を開設した。復旧作業中にかすり傷などを負った住民たちを処置した。

センターでは、被災者や被災地でボランティアに取り組む人たちの救護と心のケアに当たり、医薬品のほか、毛布など休息を取るための装備が置いている。

センター開設は三十一日までの毎日午前九～午後五時まで。医師や看護師ら五人が駐在し、対応する。

急急に備え対策を練る看護師たち―福井市みのり3丁目で

嶺北地方で豪雨災害が起りました。各マスコミは「福井や美山を中心に」などと報じていますが、行方不明者が出た鯖江市河和田地区、足羽川上流の池田町、死者の出た今立町も同様です。

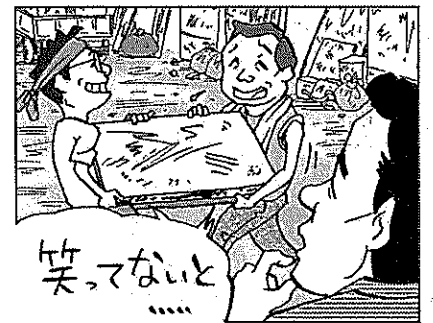
豪雨翌日の十九日に河和田地区を回りました。家の壁、高さ二層の所まで泥の跡が残り、家財道具や畳はほとんど

豪雨災害

が使えなくなりました。連日出す人の中には意外にも笑いながら作業している人も。

「こんな状況では、笑っていいないとやっつてられない」と。

二十日に今立町を訪れる予定だった政府の調査団は来ませんでした。「視察時間がなくなった」が理由らしいのですが、辻岡俊三町長は理解を



記者の三

示しながらも「冷たいなあ」と本音を漏らしました。

「福井だけでなく、こっちだって大変なんだから」と復旧作業をする人の声が聞こえます。「福井から遠いと、こうなるのか」という誤解がないような行政やマスコミの対応が必要と感じました。
(武生通信局・村瀬 力)

平成16年7月22日 朝刊

中日 新聞

足羽川の堤防が決壊した場所には昔、直角に突き出した延長五六メートルの堤防が二本ありました。石をたくさん積んで特別に補強してありました。子供のころは、そこから飛び込んでよく遊んだものです。付近は調練場と呼ばれ、地区スポーツ大会も開かれました。戦後、堤防をかき上げするとき

足羽川の護岸対策
福井 △△△△△△
昔の知恵を生かせ

に無くなりましたが、ただかき上げただけで決壊するのも当然だと思います。基礎をしっかりとおけば防げたのではないのでしょうか。川が湾曲していて弱い所だと、昔から分かっていたのですから、県の人も護岸対策も昔のことを参考にして取り組んでほしいと思います。
(福井市・男性)

平成16年7月24日 朝刊
福井新聞

豪雨被災者

福井の県営住宅開放

美山に仮設住宅5戸建設

福井豪雨で自宅が全壊した八戸を入居料免除で開市の被災者男性一人の入居が確定。仮設住宅建設に放すことが二十三、二十四日、福井市内の県営住宅の動きも進み、美山町蔵

平成16年7月24日 朝刊
福井県民新聞

作で五戸を建設することになった。一方、福井市ではすでに市営住宅を十戸開放し、八戸が入居済み。
県などによると、公営住宅の入居には県、市とも、り災証明書が必要。入居期間は一月以内だが、最大でさらに一月の間延長できる。開放される県営住宅は

▽社団地(二戸)▽杉の木台団地(三戸)▽大安寺団地(二戸)▽清水グリーンハイツ(二戸)で、確定者は下荒井団地の二戸に入居する。市営住宅で開放されているのは社団地と明里団地。

一方、美山町蔵作の仮設住宅の着工は来週中になる見込み。二十三日現在、同町内では上宇坂、下宇坂、下味見三地区の計二十三世帯から要望が出ており、町では聞き取り調査を実施している。福井市でも一乗地区での仮設住宅の建設を検討している。(桂 知之)

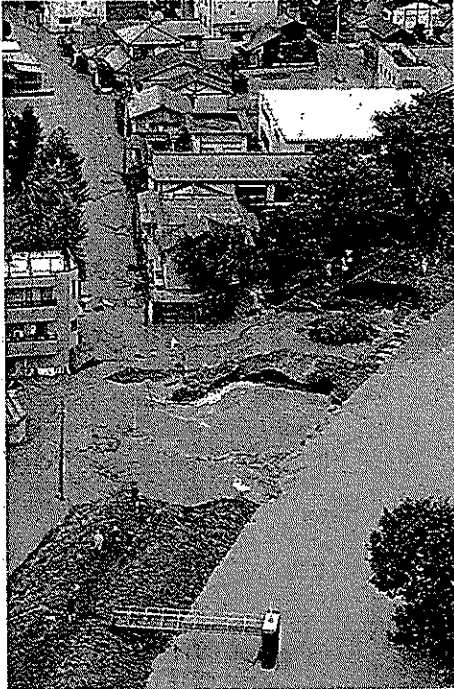
濁流

福井豪雨を検証する

▶▶2

十分の一。九頭竜川流域委員会などで、現在の足羽川の洪水に対する「危険度」として示される数値だ。「雨量確率」と言われ、統計上で十年に一度の大雨にまで足羽川の流下能力が対応できるといふ。

福井豪雨は、雨の強さでは二百年に一度とされる記録的大雨だった。足羽川の現在の流下能力は毎秒約千三百立方メートルが、川の流量がこれを上回ったことは、流域の被害状況を見れば明らかだ。美山町と福井市で堤防が決壊。美山町では広範囲に壊滅的な打撃を与え、福井市の木田、豊南地区の住宅地には濁流が



福井豪雨で決壊した足羽川の堤防＝18日、福井市春日1丁目で、本社へリ「わかづる」から(佐藤春彦撮影)

治水は「万全」だったか

えは幸橋に着手したところ、川底の掘り下げは日野川との合流部分を少し掘っただけ。そこに豪雨が襲った。

工事が完成していたら、今回の雨に対処できる。これからは、データだらうか。美山町での降り始めからの二十四時間の降水量は、二百八十三ミリと想定より少なかった。しかし、それが今回指摘している。

浸入して甚大な被害が発生した。福井工業大学の宇治橋とが主因と考える」と説明する。堤防が弱体化したこ

た水が住宅側の土を削り、堤防が弱体化したこ

り、堤防が弱体化したこ

順にかさ上げするとも

に、日野川との合流点か

ら荒川合流点まで川底を

掘り下げる。工事終了は九七四(昭和四十九年)に始まる。県内で一九五三(昭和二十八)年に降った秒千八百立方メートルまで流下二日間(三百)という戦後最大の雨量を基に、足羽川の最大流量を毎秒二千立方メートルに想定。木田橋の下流から十の橋をも、雨量確率は三千四分の一まで高まるという。しかし現状は、大瀬橋からスタートした架け替「スーパー堤防」を造るしかない」と話す。

今後、足羽川の治水の在り方について論議が急務なのは必至だ。九頭竜川流域委員を務める福井高専の奥村充司助教授は「近年は東海豪雨や新潟の豪雨など、過去の観測データによる統計が覆される災害が相次いでいる。これからは、データに頼るだけでなく、都市の防災能力を高めるなど新しい治水対策の視点が必要になるだろう」と指摘している。

平成16年7月24日 新聞
福井県民新聞



荒井克彦教授

福井市中心部の足羽川
堤防は桜並木で有名だ

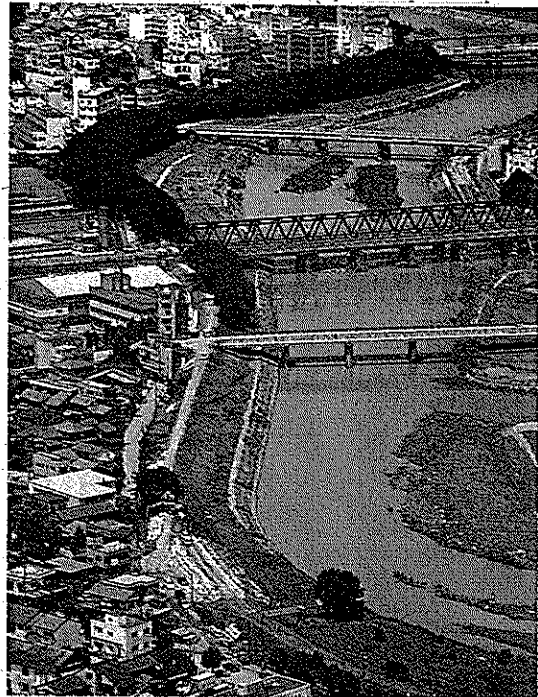
桜並木が堤防守る？

が、福井豪雨で決壊したところ、地盤工学の専門
個所は桜やほかの木など
がなかった。木の根には
堤防の補強効果があるこ

とから、地盤工学の専門
家は、決壊を免れた堤防
では桜が効果を発揮した
可能性を指摘する。

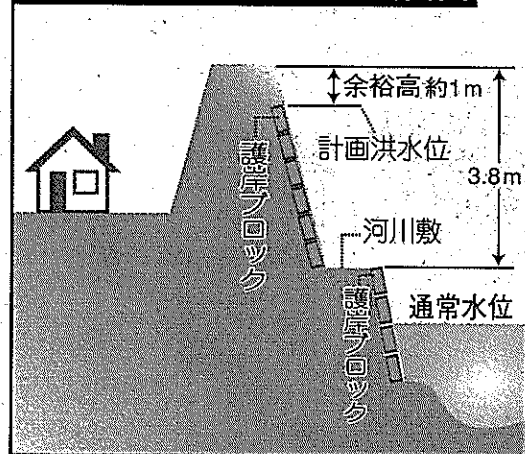
足羽川の堤防には、板
垣橋下流の右岸や木田橋
下流の左岸など全長約二
キロ、六百本余りの桜が
（五）は、決壊の仕組みに

福井大「基本的に補強効果」 荒井教授



決壊現場（手前）付近から続く足羽川堤防の桜並木＝福井市春日1丁目、本社へり「わかづる」から（福田正美撮影）

足羽川堤防決壊地点の断面図



ついで▽川が曲がる地点
は遠心力で外側の水位が
高くなり、左岸堤防の上
部の護岸ブロックの上か
ら堤防内に水が浸入▽堤
防内の土の粒子に浮力が
生じて摩擦抵抗が下がっ
て土が滑り落ちた▽さら
に、堤防を越えた水の流
れが重なって、堤防が決
壊したと分析。

ある。決壊個所は川が蛇
行する両橋間の左岸で、
近くに数本の桜があるだ
けだった。堤防は約六十
材にわたって決壊した。
福井大学工学部建築建
設工学科の荒井克彦教授
（五）は、決壊の仕組みに
ついては「基本的に補強効果
がある。破堤した場所に
たまたま桜がなかったの
かもしれないが、それ以
外の場所では桜が少し役
立った可能性がある」と
説明する。半面、台風な
どで強い風が吹き、木の
幹とともに根が揺さぶら
れたり、木が枯れたりし
た場合、根が力を失い、
堤防を弱体化することが
考えられるとしている。

（長谷川 祐一）

半面、強風なら弱体化

足羽川堤防の構造 福井市内では、通常の水位までブロックで護岸し、河川敷を挟んでさらに堤防を設けた2段構造が多い。上の段の堤防は、川が曲がる場所や橋の上流・下流などの弱い部分では、同じようにブロックで護岸してある。決壊地点も同じ構造。ただし、上段の堤防は、最上部から約1メートル下まで「余裕高」として、護岸していない。

平成16年7月25日 朝刊
福井県民新聞

2004.07.28 毎日

NEWS ことば

「越の三川」過去何度も洪水に

足羽川

九頭竜川水系の大きな支流の川。岐阜県との境にある福井県池田町の冠山を水源とし、美山町、福井市街地を流れた後、三国岳を水源とする日野川と合流し、約4キロ下流で九頭竜川本川を合流して日本海に注ぐ。

国土交通省の資料によると、足羽川の流域面積は約415平方キロで九頭竜川水系の約14%を占めている。幹川流路延長は61.7キロで、同様に支流にあたる日野川に次ぐ大きさで、九頭竜川、日野川とともに「越

の三川」と言われる。

足羽川は過去何度も洪水が起きていた。1961年には第2室戸台風のため美山町ではらんらん、越美北線が浸水してレールが約100メートル流失した。64年にも梅雨前線の影響で増水し、橋が流失。また、79年には台風16号の影響で同町の橋りょうが流失され、越美北線が不通となる被害を出している。

江戸時代の記録では、天明3(1783)年に福井で大洪水が発生し、家屋が約300戸流されたという。

現在、九頭竜川水系内で洪水調節機能を持つ足羽川ダムが計画されている。

平成16年7月25日 朝刊
毎日 新聞

2004.07.28

(第3回環境便覧)

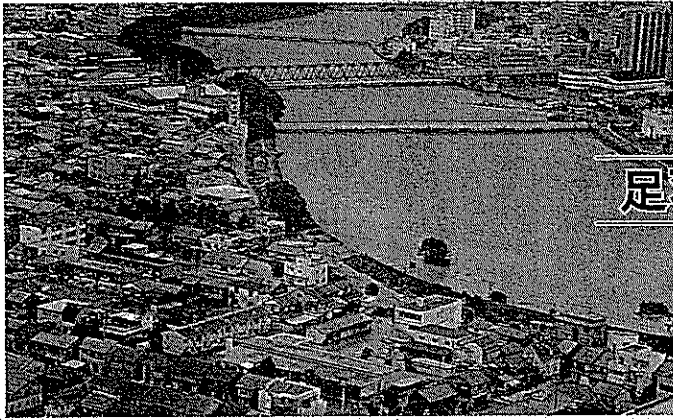
福井

28

新聞

28

密集する橋と流れ着いたがれきでせき止められ洪水状態になったとみられる福井市中心部の足羽川。手前左岸が春日1丁目の決壊場所。18日



福井豪雨

美山町を襲った雨が激流となり、福井市の足羽川に到達すると同時に

足羽川左岸なぜ決壊

同日を豪雨が襲撃した。市街地に密集する橋が流れをせき止めた洪水のダム状態になった。決壊の約四十分前には毎秒約一九〇〇という観測史上最大流量が流れ込んだ。水は堤防の最も低い春日一丁目の左岸に出口を求めた。一点に集中した力は懸崖ブロック上部の土を押し流し、堤防をえり取って、大規模な決壊を引き起こした。

橋密集、ダム状態に

700メートルに10本、橋脚が壁

「美山からの激流がちょうど福井市内に到達した九時台に五五〇と想像を絶する雨が降った。市内の支流河川からも大量に流入してきた可能性があると推測する。九十九橋の水位計は、九時十分には警戒水位を超える七・一五メートル増水したものの、その後二十分は上昇がストップしていた。だが、同四十分からますます勢いで上昇し始めた。午後零時十分には計測水位を上回り一〇メートルを突破した。

「川幅も狭まる。宇治橋通行欄井工大教授(河川工学)が着目するのは、市街地中心部に架かる橋の多さだ。橋脚のたかさげ工事が終わらないうちに、上流からの洪水が押し寄せ、流れが狭まる。幸橋前後で、流れが阻害された状況を示す。『目の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。

「『川の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。『川の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。『川の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。

「『川の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。『川の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。

「『川の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。『川の錯覚かもしれないが、幸橋前後で、流れが阻害された状況を示す。『目の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。

「『川の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。『川の錯覚かもしれないが、幸橋前後で、流れが阻害された状況を示す。『目の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。

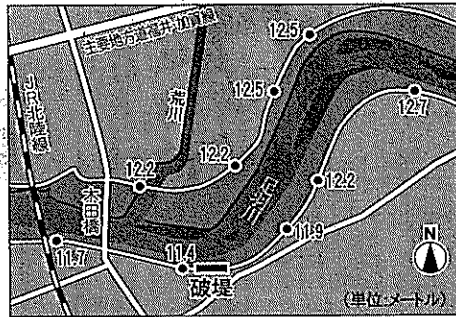
「『川の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。『川の錯覚かもしれないが、幸橋前後で、流れが阻害された状況を示す。『目の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。

「『川の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。『川の錯覚かもしれないが、幸橋前後で、流れが阻害された状況を示す。『目の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。

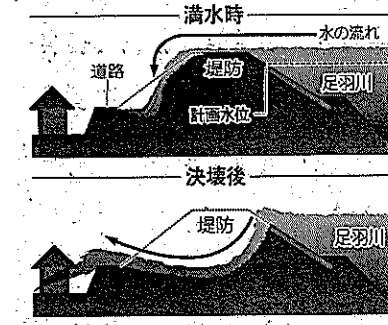
「『川の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。『川の錯覚かもしれないが、幸橋前後で、流れが阻害された状況を示す。『目の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。

高圧・S字終点が堤防最低部

足羽川決壊現場付近の堤防の高さ



県が推測する決壊の状況



「『川の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。『川の錯覚かもしれないが、幸橋前後で、流れが阻害された状況を示す。『目の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。

「『川の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。『川の錯覚かもしれないが、幸橋前後で、流れが阻害された状況を示す。『目の錯覚かもしれないが、激流だったはずの川面が、満杯になってからほとんど流れていないように感じた』と住民は話している。

平成16年7月25日朝刊
福井新聞

主婦 寺脇 敬永

(福井県大野市 66歳)

豪雨から8日目、義父を連れて大野市から福井市の病院へ車で行きました。福井市へは途中から足羽川に沿って行くのですが、水の恐ろしき川の流れをまはるまはる見せつけられました。

この道は私が6年前まで通勤で利用したバスや、並行して走るJR越美北線を通り慣れた道です。片方は山、片方は川が蛇行し、四

季のもたらすのどかな景観は心穏いものでした。雪崩や大雨による道路冠水などに何回も遭遇したことがあ

車窓から見た被災地の光景

りましたが、今回の惨状は本当に驚くばかりでした。川岸には大きな電柱や流木があちこちに流れ着いたままで、濁流のすごい力に押し出されたのか、消防団の小屋から飛び出した消防車が泥まみれ

になっていました。鉄道の線路は浮いてく字に曲がり、鉄橋が無残に落ちていました。

しかし、ほっとする光景が見られました。年寄りの住民が多い美山町で、若者2人が猛嵐の中、一生懸命に家の中から泥をかき出す作業をしていました。親類かボランティアの人なのか分かりませんが、心温まる光景で心の中に明かりがともされたような気持ちになりました。

平成16年7月31日朝刊
朝日新聞

平成16年7月31日 朝日新聞



泉 正彦 福岡市防災課長

の浸水被害は99年が約3千戸で、03年も約1800戸に上った。地下街は2度とも1000秒を超える広さで

地化が進む中、いかに川に流れ込む水の量を抑えるか。主にこの2点で対策を練っている。

お年寄りや障害者については、浸水被害の恐れがある場所にたれが住んでいるかを事前に把握し、地域の自治組織の協力を得て、災害時に素早く救助できるような態勢を整えたい。

都市の保水力高める必要

2度にわたる都市型水害の経験や、今回の福井水害の被災地で3日間、ボランティア活動をした体験から、防災にどう取り組むべきかを考えてみたい。

福岡市では99年6月と03年7月、豪雨で市内を流れる御笠川がはんらんし、JR博多駅周辺や地下街、住宅が水浸しになった。住宅

水につかり、99年は地下飲食店の女性店員1人がおぼれて死亡。03年は、JR博多駅の地下を通る市営地下鉄が23時間運行できなかつた。

事だった。改修はその後も進んでいるが、今、昨年と同じ量の雨が降れば、やはり川はあふれるだろう。

呼びかけるのは「河川が警戒水位を突破し、上昇する恐れがある時」とあいまいだった。今後は1時間当たりの雨の降り方をリアルタイムに監視し、30分を超え

代表者に、河川の水位や避難情報を伝える態勢もできた。地下街の事業者150社には情報を一斉にファクスで送る。川沿いの7カ所にサイレンを新設し、危険水位を超えたら知らせる設備も設けた。

福岡市では、1960年に市内の土地利用の半分を占めた田畑が02年は3分の1に減る一方、宅地は2倍に増えた。保水力が下がり、一気に水が川に流れ込むため被害が起きやすい。そこで、降った雨をためる調整池を造り、雨が地下にしみ込むよう浸透性のある舗装や側溝の整備を進めている。小学校の校庭地下に800トンの調整池を設けるほか、公園にも3万ト規模を造る計画だ。

opinion © news project

opinion

こんな商売があつたか
どつかは別に、江戸
の小咄に「夕立売り」
というのがある。日照り
が続くと「夕立や、夕立」
と売りに来る。どんな仕
掛けで雨を降らせるのか
は詮索しない。なにしろ
小咄だ▼「夕立屋、隣の
家の表からうちの表まで
たがぶり降らせてい
くらだ」「へい、四
間に三間半だから八
百五十文で」。商談
が成立するとたちま
ち車軸を流すような
大雨が降る。奥から娘が
出てきて、「このサクラ
ソウにも三文ほど頼みま
す」▼福井県地方は先月
二十二日に梅雨が明けて
以来まとまった雨が降っ
ていない。豪雨水害の傷
痕がまだ癒えないという
のにこも暑い日が続く
と雨が恋しくなる。人間

越山潜水

とはまったく勝手なもの
である▼冷たいものも恋
しい。間もなく始まる甲
子園大会の名物は「かち
割り」。氷を粗く砕いた
だけのものだが炎天下の
スタンドでは地獄に仏の
ような涼味である。東京
では明治の初め「ぶっか
き」の名で売られて評判
だった▼九代目市川
團十郎は「身にしむ
や夏の氷のありがた
と詠んだ。夏に
16.8.5
氷は大変な貴重品だ
った。このほか風鈴
や軒端につるす釣り窓な
ど、日本人は目や耳、五
官を動員して涼を求めた
▼打ち水などは最も手っ
取り早い。水をまくと確
かに涼しくなる。福井大
生らが市民に呼び掛けて
どれほど涼しくなるか実
験する計画がある。名付
けて越前打ち水大作戦。

平成 16 年 8 月 5 日 刊
福 井 新 聞

若越の豪雨

新潟に続いて、福井に豪雨が襲ってきた。そして今度は四国である。異常気象だという印象が強かった。

先日、被害のひどかった美山町へボランティアとしてお手伝いに行ってきた。

家族連れ、夫婦、趣味のグループ、また一人での参加などいろいろで、地域も県内ばかりでなく、大阪、名古屋、岐阜などからバスで参加した団体もあった。

取りまとめるボランティアセンターのスタッフは若い人が多くて、暑い中を頑張っており、彼らの指示に従って何百人かが動いていた。

この時は二百年に一度の豪雨だといわれた。新潟でも、福井でも、四国でも、およそ二百年か二百年に一度という豪雨だったのだらう。しかし豪雨がどうも続くこと、とても異常気象とは思えなくなっている。台風が来るたびに、毎年やってくるのではないが、地球がそんなふうになってしまっただのではないか、そんな不安がある。

私の住んでいる三方町でも一九九九年に豪雨に襲われ、道は寸断され、あちこちの山が崩れた。近所の家の保水力がなくなったとい



豪雨

— 三方町縄文博物館副館長 玉井 常光

広葉樹が少なくなって山の保水力がなくなったとい

い虫で枯れた松の山があるが、この山も不安である。松が次々と枯れ、松くい虫の被害が広がりはじめてからもう何年へらいにたっただろう。今は、山の松林が白っぽい木肌のまま立っている姿が目立っている。かつてはマツタケがよくとれたというこの山も、戦争で燃料にするため松を

このような山が、福井県内にもたくさんあるが、松の根が腐ったところ、豪雨により山が崩壊する心配はないのだろうか。そのころには、新たな木が生えてきてしっかりと根を張り、山を守ってくれるのであろうか。

では土砂が家の中を流れ、大きな被害を受けた。短時間で集中的に雨が降ったため三方五湖の水が排水できず、国道は冠水し、付近の家は浸水した。

豪雨による被害を見て、被災者の方々には今後ともいろいろな支援が必要なのであろうと考えながら、一方で立ち枯れた松林を思い浮かべている。

この時は二百年に一度の豪雨だといわれた。新潟でも、福井でも、四国でも、およそ二百年か二百年に一度という豪雨だったのだらう。しかし豪雨がどうも続くこと、とても異常気象とは思えなくなっている。台風が来るたびに、毎年やってくるのではないが、地球がそんなふうになってしまっただのではないか、そんな不安がある。

わたっているが、確かに山に強制伐採されて、その後自降った雨が落ち葉にしみこみ込んでゆっくり川へ下りてくるようになったようなことがなく、一気に下へ入っていき、枯れてしまった。

私の家の近くには、松の中へ入ると、樹皮もなくな

った松が枝も落として立っている。少し風の強い日は、いつ倒れてくるか分からない松が怖くて、とても山へは入れない。大きなシイの木や山桜、カエデなどの雑木は残っているが、倒れた松のため押さえつけられて、斜めになったまま葉を出しているものもある。

(三方町)

不

死

鳥

16.8.17 福井県

建設に対するJRの自風当たりが強くなつて

口負担が軽減できるだ、確かにそういつ

め、多額の復旧経費に側面もあるが、事業が

二の足を踏んでいるJR田舎に進むよう、既存

Rを後押しできるのが、制度の活用に知恵を絞

ることは、行政にとつ

て腕の見せ

てきた。

JR越美北線の早期復旧を

目指し、河

川の関係箇所を拡幅す

る事業が検討されてい

る。この種の河川改修

るために必要以上に規

格を拡大して、予算を

浪費している」との指

示がある。新たな鉄橋の

橋もあり、特に近年は

(太田 貢市)

平成16年8月17日 刊

福井県民新聞